ODF解析ソフトウエアはXRDとEBSDデータの解析が可能

2018年10月17日

HelperTex Office

odftex@ybb.ne.jp

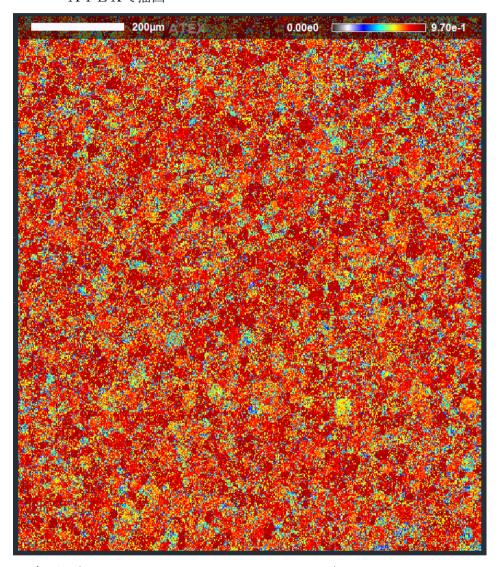
概要

XRD, EBSDのメーカ製ODFソフトウエアは、それぞれXRDのみ、EBSDのみの解析 行いますが、メーカ製でないLaboTex, TexTools, MTEX, ATEXソフトウエアは XRD, EBSDのデータからODF解析が可能です。

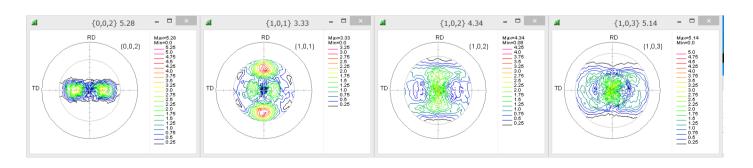
ATEXはパスなどに日本語があると動作が不安定になります。

扱うEBSDデータ (Ti-OIM-ang)

ATEXで描画

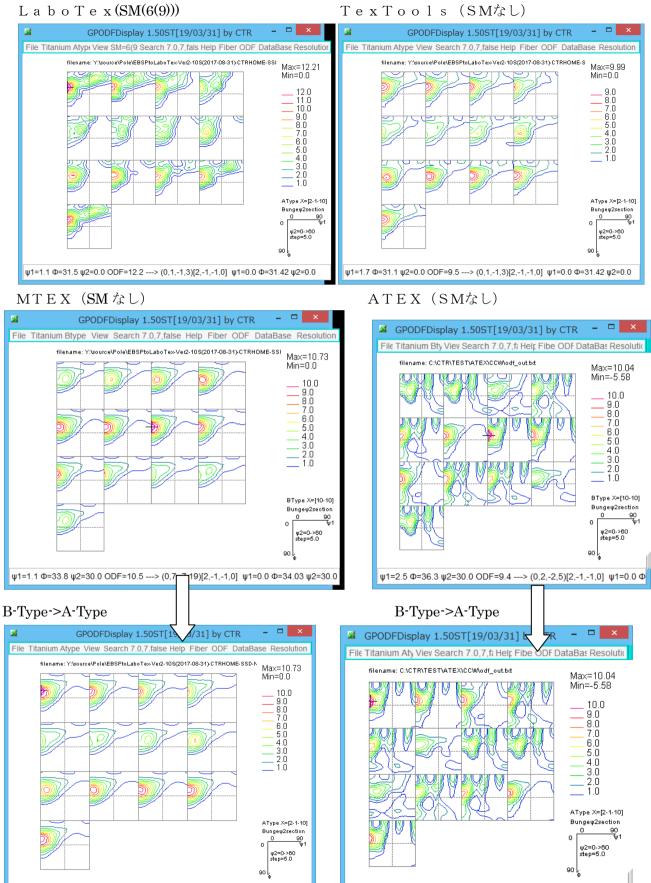


扱うXRDデータ (Ti-Rigaku-RINT2000)



XRD解析結果

各ODF解析ソフトウエアで解析し Export ファイルを GPODFDisplay ソフトウエアで表示



Ψ1=2.5 Φ=37.5 Ψ2=0.0 ODF=8.9 ---> (0,1,-1,2)[2,-1,-1,0] Ψ1=0.0 Φ=

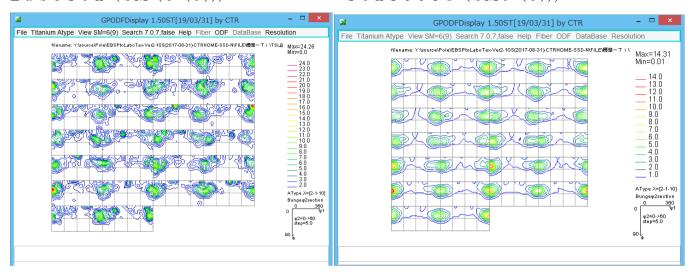
同一の ODF 図が得られます。

ψ1=1.0 Φ=31.3 ψ2=0.0 ODF=10.7 ---> (0,1,-1,3)[2,-1,-1,0] ψ1=0.0 Φ=31.42 ψ2=0.0

EBSDデータから解析

LaboTex (SM (6 (9)))

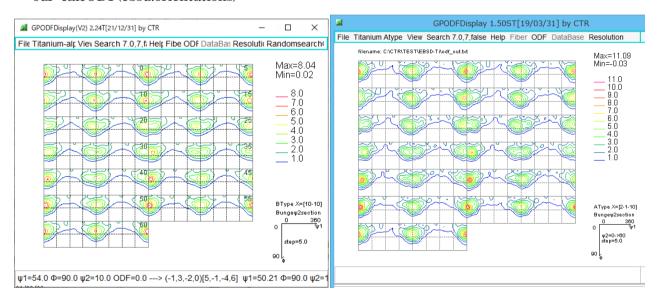
TexTools (SM6 (9))



MTEX (SMなし)

ATEX (SMなし)

>> odf=calcODF(ebsd.orientations)



MTEXが異なる。使い方の問題なのか???

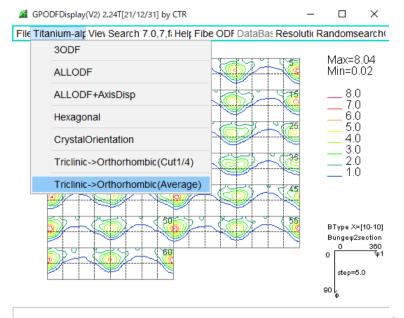
use ANG interface flag 'convertSpatial2EulerReferenceFrame'
use ANG interface flag 'convertEuler2SpatialReferenceFrame'

で phi2 が 30deg シフトする。上記読み込みでODF図が一致する。

MTEXでは、デフォルトでXRDは半価幅10deg, EBSDは20degで描画されているので、離散データでも平滑化されて表示される。半価幅は変更できる

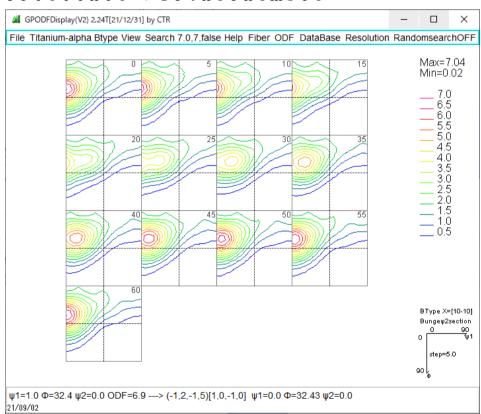
MTEXの場合、Triclincで計算し、Export後 GPODFDisplayで Orthorhombic 化が最適 MTEX内で Orthorhombic 化では、φ=90deg データが欠落する。

GPODFDisplay による Triclinic->Orthorhombic



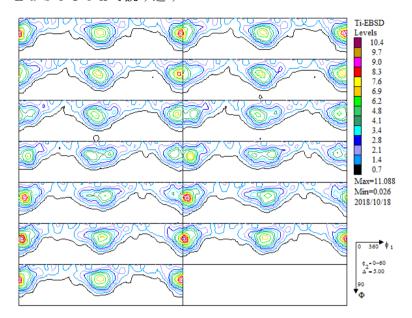
Cut1/4 は使用しない

Triclinic->Orthorhombic

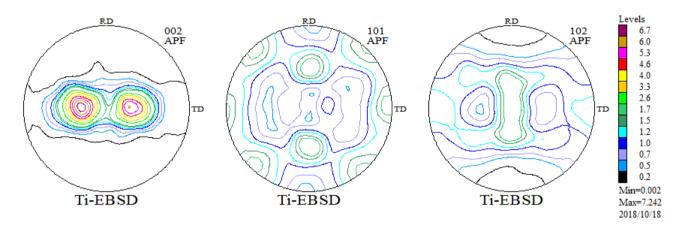


ATEXは、ODF図のExportは行えるが、再計算極点図や逆極点図はExport出来ない。 ATEXのODF図から再計算極点図や逆極点図の作成は、ATEXODF図をLaboTexに読み込ませて 行えます。

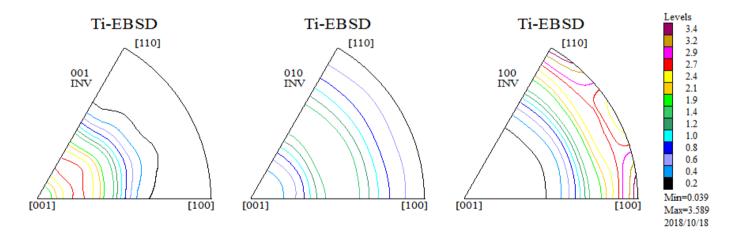
ATEXのExportODF図を**LaboTexODFFileソフトウエア**から LaboTexで読み込み



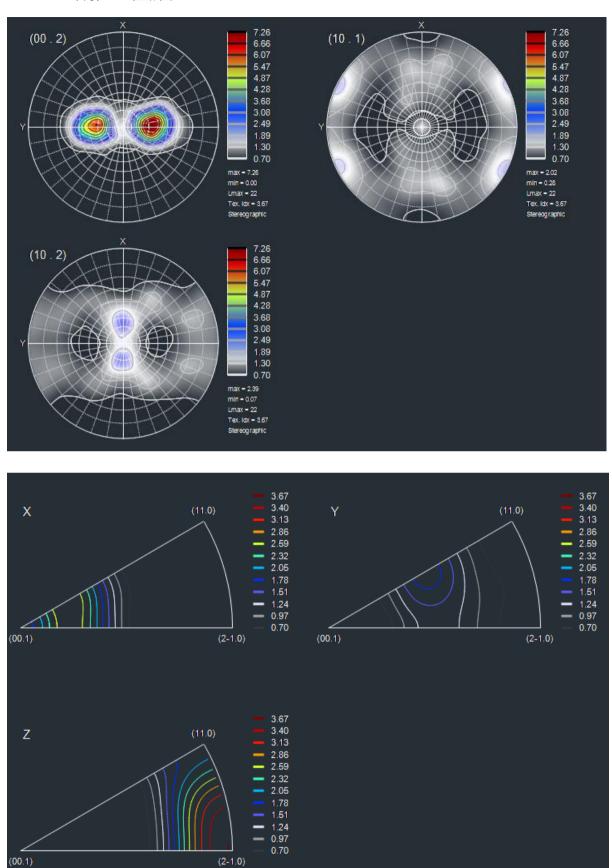
再計算極点図



逆極点図



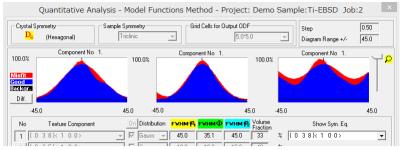
ATEXで計算した極点図



極点図はTD軸が逆で、極点図も左右が逆転しているように見えます。 再計算極点図、逆極点図の密度は、LaboTexで計算した値とほぼ一致する。

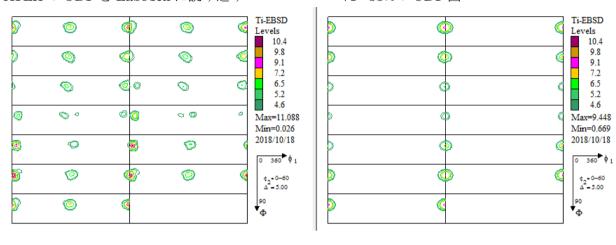
VolumeFraction計算

Labotex{038}<100>=33%

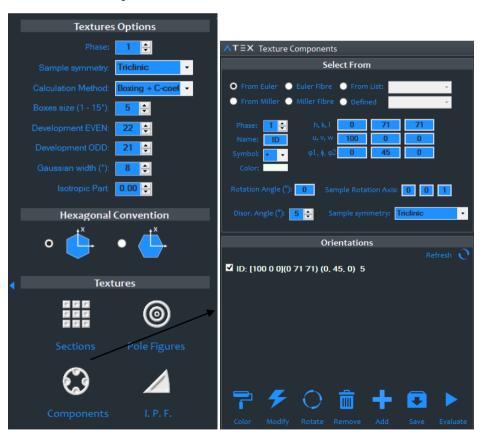


ATEX の ODF を LaboTex に読み込み

VF=33%の ODF 図



ATEXOComponents



Euler角度(0, 45, 0)でAddすると、 $\{011\} < 100 > を計算する$ Cubicで計算される????。

Section, PoleFigure, InverseはTiで正常動作